

令和4年度の重点目標

- 1 諸活動への取り組みを奨励することにより、心身ともに健康で主体的に学び合う活力ある生徒の育成や本校の特色化の推進を実践する。
- 2 授業の工夫や面談の重視を心掛けることにより、生徒理解・生徒把握に努め、生徒の学習意欲や体力の向上、豊かな情操を育むとともに進路意識の醸成を図り、生徒の自己実現を目指す。
- 3 地域と共に歩む学校を認識し、地域社会と積極的に関わろうとする意識や望ましい生活態度を確立させることにより、社会に生きる人間としての自覚を培わせる。

令和4年度 努力目標及び具体策

1 教務部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用し、新しい大学入試に対応する力を養成する。	(1) 新教育課程の実施に際して、情報収集を行い計画して行く。教科間で連携し、新課程への円滑な移行を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集、教科間での連携が不十分であった。 ・ 評価方法が本当にこれでよいか何が正解なのか不安である。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価を見据えた授業、テストを実施する。 ・ 県から具体的な事例を示してもらう。
	(2) 特色選抜の規定等の見直しを行って行く。新たな計画で円滑に入試が実施できるように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を集めながら、適切にスリム化できた。 ・ 係を分担することで、新规定が決定できた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新规定を基準に特色選抜を行い、必要に応じて、調整を図っていく。
2. 令和5年度入試を確実に実施し、本校の志願者を増やして行く。	(1) 一日体験学習・中学校訪問で、本校の魅力を広報し、志願者が増加するように努めるとともに、学校HPの充実を図っていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校HPはフォントの工夫が必要である。 ・ 一日体験はPRできたが、3回行うのは負担が大きい。 ・ 多くの教員で中学校訪問をし、アピールできた。 ・ オーストラリア語学研修参加希望の生徒のため、実施に向けて検討していくことが大切である。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一日体験の実施方法を検討して行く。 ・ 学校HPのフォントなどを工夫し、充実を図る。 ・ 中学校訪問はPRのよい機会として今後も継続していく。 ・ 引き続きオーストラリア語学研修をアピールし、実施していく。
	(2) 各職務のあり方を考えながら、確実に職務引継ぎを継続していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の業務が多く、改善の余地はある。 ・ 学校日誌の記入を工夫するなど、以前よりスリム化されてきた。 ・ 電算情報係は仕事を分担し、各自実施できた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務職員に役割分担を求める。 ・ 担任の係分担を工夫し、負担を軽くしていく。
3. 各係が、創意工夫を重ね、見直すべき点を見直し、確実に職務を遂行する。	(1) 業務のスリム化を見据えて職務にあたる。互いに声を掛け合い遺漏のないよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引継ぎは、紙とデータで残していく。 ・ データだけでなく、必要なものは紙で残す。 ・ 前年度のファイルやデータに、かなり助けられた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も確実な職務引継ぎを、継続していく。 ・ 引継ぎ書なども必要に応じて作成する。
	(2) 業務のスリム化を見据えて職務にあたる。互いに声を掛け合い遺漏のないよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を集めながら、適切にスリム化できた。 ・ 係を分担することで、新规定が決定できた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新规定を基準に特色選抜を行い、必要に応じて、調整を図っていく。

2 学習指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを活用するなど、授業の工夫をすることができた。 ・ 授業配信の環境が整い、「学びの保障」に努めることができた。 ・ 授業の改善のためには、授業評価のデータのフィードバックが肝要である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価委員会と連携し、授業評価の方法と生かし方の見直しをしていく。
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、学習習慣を定着させるとともに、明確な目標を持って主体的に学ぶ姿勢を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ガイダンスアンケート結果を見ると新入生に好評であった。 ・ 主体的取り組みについては、生徒間の差が大きい。 ・ 「やらされる学習」になっている生徒が多い気がする。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路とも連携し、目標をもって「自らする学習」へと向けたい。(ゴールを見せて走らせたい。)
2. 総合的な探究の時間の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、総合的な探究の時間に行う課題研究・進路学習の指導を効果的に行えるよう努める。また、評価方法について研究する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み内容は充実したものになっていると思う。 ・ もう少し外部の人からアドバイスをもらう機会があるとよい ・ 課題研究の時間をもっと多くとれないか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価方法のさらなる工夫を模索していく。 ・ 外部との連携を図る。 ・ 係が中心となって計画的に動けるようにする。
3. 生徒の読書活動の推進を図る。	(1) 蔵書の充実を図るとともに、推薦図書の紹介やビブリオバトル等を通して、読書への興味・関心を喚起させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「先生のおすすめ本」の企画が好評なので、全職員が生徒に推薦図書を示せるとよい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員自身も読書に親しむ時間が作れるとよい。 ・ 授業等で図書室を利用する機会を増やしていく。
4. ボランティア活動、体験活動の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、ボランティア活動、体験活動を推進し、制約のある中でも、生徒が積極的に参加できるよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動が再開され、昨年度よりも多くの生徒が参加できてよかった。今後参加人数をさらに増やせていけたらよい。 ・ 1・2年生のうちに体験できると異なる年代の方とのコミュニケーションがとれ、進路にもつながる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動に参加しやすい環境づくりをする。 ・ 地域の企業や団体との連携を進めていく。

3 特別活動部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1) 各種行事内容を十分に検討し、感染症対策を図りながら、より充実したものにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を念頭に置きながら円滑に行事を進められた。 学校祭は感染症対策を気にしていたが、体育大会は接触が多かった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 他校の例や生との意見も取り入れながら、実施する。 今年度の経験・反省を次年度に活かす。
	(2) 各種委員会や一般生徒の協力を得ながら、役員が中心となって生徒会を運営する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が伸び伸びと活動していた。 生徒主体の活動をもう少し増やせるとよい。 生徒会役員の負担が大きい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 役員への指導を重ねていきたい。 生徒会役員だけでなく、委員会や部活動も使い、行事等を行う。
2. HR活動における生徒の主体性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1) 各種委員会活動の自主的な活動を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 委員会によって活動内容に差がある。 指示されたことだけでなく、自分で考えて動けるとよい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 各委員会の活動内容を見直す。 生徒会役員を通じて呼びかけをしていく。
	(2) LHRのクラス別活動時間の確保と生徒による主体的活動を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> LHRの時間にやる事が多く、クラス裁量の時間が少ない。 学年裁量の時間が少なく、学年集会が行えない。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 各学年にLHRの内容を検討してもらおう。
3. 部活動を活性化させる。	(1) 施設・設備の充実を図り、部活動の活性化に繋げる。	C	<ul style="list-style-type: none"> 校庭や外の施設、体育館など状態がよくない所がある。 必要最低限のもので、予算がなくなってしまう。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の充実は、県費が絡むため、特活部だけでは実行できない。各部活動から、意見を聞き、事務と相談したい。
	(2) ホームページ等を通じて、広報活動を積極的に行って地域間の連携を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 個人的には、部活動の記事を載せることができた。 HPの記事が少なかった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 次年度は、生徒会役員による記事の作成を行いたい。

4 生徒指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 統一された指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して生徒指導に当たる。	(1) 職員間の共通理解を図り、全学年を通じた公平性のある容儀指導と日常の指導を全職員で行うことで、正しい生活態度の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容儀に関して、時代に即した改善を行う部分では共通理解を図れた。日常の指導を全職員で行っていく必要がある。
	(2) 渉外部と連携した挨拶運動や、昇降口付近での立哨指導を全職員で行い、地域との関わりや生徒の健全な育成を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立哨指導は計画的に全職員で実施できた。あいさつの更なる奨励を進めていく必要がある。 ・ 継続して立哨指導を進めるとともに、日ごろからあいさつの重要性を認識させていく。
2. 教育相談を効果的に活用しながら生徒に対する生活支援を行う。	(1) 各部・各学年との連携を密にしなが、多様化する生徒の情報を収集・共有して対応することにより、生徒の学校生活の支援や改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有はおおむねできているが、別室対応等の体制を考慮する必要がある。 ・ 継続して情報共有を行い、部を超えた対応を考慮していく。
	(2) SCや外部機関との連携を図ることで、教育相談の校内支援体制の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ SCの活用による支援体制はおおむね充実することができた。その後の対応の仕方を考慮する必要がある。 ・ SCの活用の更なる充実を図るとともに、外部機関との連携による対応の充実を図る。
3. 交通安全及び社会規範に対する意識の向上を図る。	(1) 交通講話や自転車点検、通学路における交通安全指導を実施することで交通安全意識の向上を図り、交通事故の撲滅を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通講話等の実施により、交通安全意識の向上はおおむね図ることができた。交通指導の更なる充実を図る必要がある。 ・ 交通講話や安全指導を継続して行うとともに、交通指導の計画の充実を図る。
	(2) いじめアンケートや外部機関と連携した種々の講話を実施し、いじめの未然防止や社会規範に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートや人権教育の実施により、いじめの未然防止はおおむね図ることができた。社会規範に対する更なる意識の向上を図る必要がある。 ・ 社会規範に対する意識の向上のために、講話等の内容の充実を図る。

5 進路指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の志望や適性を把握し、それらを通して1人1人の進路意識を高める。	(1) 進路適性検査、進路資料の活用や、進路講演会、大学見学、翔南一日大学、合格体験発表会等の実施によるキャリア形成の実践（キャリアパスポートの活用）	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったが、3年ぶりに翔南一日大学が開催できてた。オンラインも活用することで、参加いただいた学校もあり学校もあり、充実した講師陣だった。進路の様々な取り組みや行事により、進路意識を高めるきっかけ作りとなった。 進路意識を早期に持たせるためにも翔南一日大学を1・2年生で実施できないか。進路シラバスに沿った各学年の進路指導を点検する。
2. 生徒に高い目標を設定させ、その達成に向けて努力させる。また入試方式の理解を深め自己実現に必要な要件を研究させる。	(1) 進路検討会等を充実させるとともに、各種の資料を分析、検討して提供し、志望校決定のための適切な助言をする。また総合型選抜、学校推薦型選抜の研究を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各大学からオープンキャンパス等で様々な情報が発信されている。情報の取捨選択がうまくできているか。進路検討会は参加者の積極的な発言があって、非常に参考になった。様々な資料が提供されたが、活用し切れなかったものもある。活用できたものもちろんあり、資料の活用についての事前打ち合わせ、意識の共有が必要だった。 どのタイミングでどんな資料が必要か、各学年とさらに情報を共有していく。
3. 志望進路の実現に必要な総合的な学力を養成する。	(1) 大学入学共通テストや入試問題等を分析し、校内模試・実力テストの作問に生かす。また結果分析を充実させ、授業改善や生徒の学習指導に資する。(特に大学入学共通テストや英語民間試験に関する情報の収集)	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科にて随時研究を進めている。 今後も調査研究を継続する。
4. 保護者や地域社会への広報活動に努め、進路指導に関する理解と協力を得る。	(1) 保護者面談、PTA総会、学年部会、支部会等を利用して進路情報を適切に伝える。	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事を通して、保護者に情報を発信でき、部として広報・活動報告は十分行えた。 学年部会、PTA総会等でコロナ対応型の最新の入試情報が提供できるようにする。
5. 新学習指導要領や高大接続に向けた進路指導体制を構築する。	(1) 調査書、活動報告書等の作成や、大学入試の出題傾向等に関する情報を収集し、周知活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム導入初年度で、調査書が新しい形式になり、業務がうまく進まないこともあったが、学年の先生方協力で乗り越えることができた。多くの学校の情報を収集活用することができ、生徒にとってプラスになった。 今後も調査研究を継続する。

6 健康指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒一人ひとりが心と身体の両面から健康管理ができるように指導する。	(1) 生徒が日頃から自分自身の健康について関心を持ち、感染症予防やけが防止等、積極的に自己健康管理が出来るよう、具体的アドバイスを する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が自己管理できていたが、校内感染も若干見られた。自主性を育て、健康に関する意識を高めることが課題である。 自己解決力をはぐくむことができると良い。感染症に対する意識を高める様啓発をしていく。
	(2) 健康上配慮を要する生徒に対して、情報を共有し、連携を図りながら支援体制を強化する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初情報共有を行えたので引き続き行いたい。ただ、速やかに日々の情報を共有できるよう改善も必要である。 保健室利用生徒と関係職員の状況共有を密に行う。利用状況を把握し、利用が多い生徒については各部署と連携をとりながら対応する。
2. 地域の方々と連携をし、安全で安心な学校環境を整備する。	(1) 災害時等の緊急事態発生時における教職員への周知及び近所の方々への事後の対応等を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルを確認し、日々意識できると良い。 避難訓練などを活用し、いざという時に備えてマニュアルを再度確認するよう周知する。
	(2) 救急患者の対応方法を明確にするため、生徒及び教職員を対象に講習会等を行い、危機意識の高揚を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 適切に実施することができたが、感染症対策や熱中症対策をしながら行うことが課題である。 生徒向けの講習会はもっと早い時期（1学期中間試験最終日）に行えると良い。
	(3) 安全点検を実施し、危険箇所の詳細を把握し早期に対処する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検は比較的实施できていた。 早急に対応しなければならない箇所を把握し、要望を伝える。安全点検はデータベースに移行し、教員の負担を減らす工夫をする。
3. 学校環境の美化活動を推進する。	(1) 清掃分担区の監督割りの工夫を図り、清掃用備品・消耗品の管理及び補充を迅速に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 迅速に対応することができた。今後も改善すべき点を把握し校内美化に努めたい。 学期末の大掃除の時間を延長し、具体的にどのような箇所を重点的に行うべきか、委員会活用し校内美化を促進する。
	(2) 各清掃分担区において具体的な目標を定めるなどし、自ら積極的に美化活動に取り組めるよう指導する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃では行き届かない部分もあるので、大掃除やワックスがけの時間を活用できるとよい。人手が必要な箇所、そうでもない箇所を把握し、適切な人員配置を行う。 委員会を活用し、具体的な指示や講習を行なえると良い。校庭を含めて大掃除する機会があってもよい。

7 国際理解部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
<p>1. 広い視野と自己表現力を持ち、将来、国際社会で主体的に行動できる生徒を育成する。また英語を用いて「高いコミュニケーション能力」の育成を目指す。そして、英語検定受験を積極的に奨励する。</p>	<p>(1) 国際交流活動への積極的な参加を促す。そして、その体験を多くの生徒が共有することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「オーストラリア語学研修」、「イングリッシュキャンプ」への参加の奨励 ・ (オー研) 報告会、紫陽祭のオー研等展示発表 ・ 「国際交流会」の実施 ・ 生徒向け啓発資料 “Mini World”、“Global Village” の発行 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年はコロナ感染症の影響で中止となった全ての行事を今年度は実施することができた。 ・ 国際交流会では留学生との交流時間がもう少し確保できればよかった。 ・ オー研が延期されると報告会等次年度の行事との間隔調整が必要となる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な感染症対策を取りながら、各行事を実施する。各行事の課題や問題点の解消に向けて、来年度の担当者に引き継ぐ。
	<p>(2) 実用英語技能検定試験を準会場として計画し、1・2年生全員の積極的な受験を奨励する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備が綿密に行われ、学年末のテストに合わせて2次試験の日程を変更することもできた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年で生徒の能力に合わせて計画的に受験対策を練る。
<p>2. 国際交流活動の充実を図る。</p>	<p>(1) 依頼業者や団体と綿密な連携をとりながら「オーストラリア語学研修」、「イングリッシュキャンプ」「国際交流会」の内容の一層の充実を目指す。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ イングリッシュキャンプでは生徒は生徒のレベルに合わせた授業を選択することができた。 ・ オー研は2週間の短縮日程やホームステイが2人1家庭となり、過年度とは異なる形式となる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部の打ち合わせ等を通して、課題や問題点の改善策を協議し次年度の計画を練る。
	<p>(2) 受入及び派遣留学生に対する組織的な指導をきめ細かく実践する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も学校全体で留学生の生活を支援した。留学生は修学旅行に参加し、貴重な異文化体験の機会を得た。周囲の生徒に大きな良い影響を与えた。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体で留学生の学校生活をサポートする組織体制を更に充実させる。

8 渉外部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 保護者および同窓会員との連携協力を密にし、特色ある活動の有効な実施をはかる。	(1) ふれあい挨拶活動と学校美化活動について、現状に対応した効果的な実施を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい挨拶活動は最後まで実施できた。 ・ ふれあい挨拶活動は仕事をしている保護者にとって負担であると感じた。(休暇をもらって来てくれていた方もいた。) ・ 学校美化活動はPTA本部の行事で、今年度は校庭の除草等を考えていたが、直前にPTA本部より延期の申し出があり、実施しないことになった。計画の段階では保護者37名の申し込みがあり、職員も7名の参加が予定されていた。本校の保護者は学校に協力的であると改めて感じた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間内に来られる日としたのはとても良かったと思う。
	(2) 同窓生の学校行事への参加を促進し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育講演会ではコロナ前に開催していたのと同様にできた。大学生を呼んでの講演会も好評だった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続していきたい。
2. 各行事への保護者の積極的な参加を促す。	(1) PTA行事（総会・研修旅行・学校美化活動・支部会）への保護者参加者数の向上を目指して、計画、広報を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日の支部会で、予想以上の出席率だった。学校への関心度の高さを実感した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部会に複数回出席しなければならない教員の負担の軽減を考えるべき。
	(2) 学校行事（学校祭・持久走大会）の協力活動について、改善できる点を明確にし、内容の充実をはかる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事へのPTAの参加については、コロナ禍で実施方法が十分に伝わっていないものも多い。今後実施する場合、不安が残る。 ・ 今年度も学校行事にPTAの参加はなかった。そのかわり、PTA会費でのテント購入、部費への援助、創立記念講演会への援助等を行っている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭で小規模なバザー等なら対策すれば可能かもしれない。
3. PTA組織の適切なあり方を検討する。	(1) PTA組織について、本校の現状に合った適切なあり方について検討する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、支部会の数を学校規模の縮小に合わせて10から8に減らした。その他、行事等の見直しも考えていかななくてはならないと思う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は状況に応じた行事を検討していきたい。

9 1 学年

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 基本的な生活習慣を確立すると共に、特別活動への積極的な参加を奨励する。	(1) 教職員の共通理解のもと、日頃から服装頭髪に留意し、心身ともに健康で、良好な出席状況を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールをきちんと守っている生徒もいるが、女子の制服の乱れが見られるようになった。 ・ 不登校生徒が出ており、欠席が多くなった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服装指導については、粘り強く継続指導していきたい。 ・ 今後も、不登校になりそうな生徒への対応を早期に行っていきたい。
	(2) 特別活動（部活動や学校行事、校外活動など）への積極的な参加を奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動においては、ほぼ全員継続しており、また学校行事にも積極的に参加できた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習と部活動の両立を目指しながら、継続させていきたい。
2. 主体的な学習習慣を習得させ、基礎力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間2時間以上（学年+1時間）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の記録やクラッシーによる学習時間の確認が、うまく機能できなかった。 ・ テスト前はよく学習に取り組んでいるが、毎日の家庭学習習慣がなかなか身につかない。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導上の工夫を行い、自ら取り組む姿勢を育てる。 ・ 携帯の使用時間を自主的に減らし、学習時間を確保していけるような取り組みが重要課題である。
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果を分析する時間がなく、定期試験や実力テストの活用ができなかった。 ・ 進研模試など、振り返りや復習を促した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して取り組ませる。
	(3) 個人やグループの課題研究に、主体的に取り組む意識や態度を高められるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちは、前向きに取り組んでいるものの、タブレットPCの問題や使い方などに時間がかかってしまい、「主体的」まで行きつけない状況である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に自分の課題研究に取り組めるよう、指導していく。
3. 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個々の適性を把握し、生徒の進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接をする十分な時間が取れなかった。 ・ 進路意識を高めるため、進路講演や夢ナビなどを利用し、意識づけを図った。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の進路について更に計画的に具体化していきたい。
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文対策は、良く取り組んでいた。 ・ 基礎学力の養成を図る努力はした。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に指導を行う。

10 2学年

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、容儀指導を計画的に実施し、生徒が誇りを持って制服を正しく着用できるようにさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 女子のスカート、靴下指導の徹底が難しい・基準を世論とどう合わせていくか？
	(2) 学校行事や部活動等の特別活動を継続して奨励し、充実した高校生活を送らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の声かけ、学校全体で取り組む。 全県下での方針を示してほしい。 コロナ禍の修学旅行であったが、無事実施することでできてよかった。 部活動がサークルのようになった時があった。 授業時間の確保。 顧問、副顧問の協力体制を作る。 最後の大会に向けて、学年全体で応援し、頑張らせる。 行事の更なる精選。
2. 主体的な学習習慣を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 充実した面談を通して、生徒の学習意欲の向上を図り、主体的に学習する態度を育む。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の個人差が出ている。 主体的に学べる生徒が出てきた一方で、そうでない生徒もいる。 一人ひとりの進路意識、受験生としての意識を高める働きかけを継続していく。 3年間を通しての課題、課外等の計画が必要である。
	(2) 課題研究に主体的に取り組ませ、出来るだけ卒業後の進路に直結するような探究学習を目指し、取り組ませる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は良く取り組んでいる。 理系（工学系）はうまくいっているが、理系（医療系、生物系）と文系が課題である。 複数の大学、特に文系の大学との連携が必要である。
3. 一人一人の志望と適性に応じた進路指導を進める。	(1) 2年キャンプ見学・翔南1日大学・オープンキャンパス、LHR、総合的な探究の時間などを通して、進路意識を高め、具体的な進路選択が出来るようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> 翔南1日大学や総探の時間を通して、進路意識を高めることができた。 夏休みのOCが中止となり、十分に出来なかった生徒もいる。 理系の宇大実験講座に対する文系の講座がない。 面談等を通して、働きかけを行う。 文系大学との連携を探る。
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検等の指導を通して、進路意識の向上を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「書く力」で志望理由書を書かせたことで、大学研究・職業研究を自分事として捉え、進路意識の向上に繋がった。 模試後の指導の徹底 全体集会での講評と自己評価をルーブリック等で行う。

1 1 3 学年

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 最上級生としてふさわしい生活態度とリーダーシップの育成を図る。	(1) 全教職員の共通理解のもと、容儀指導を計画的に実施し、頭髪・服装に関する規則を遵守する態度の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 女子のスカート丈とハイソックス着用を徹底することができなかった。 共通理解のもと、適切に実施できた。
	(2) 様々な学校行事を通して、最上級生としてのリーダーシップの育成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中でも工夫して各行事を有意義なものへと導き、3年生の力を大いに発揮してくれた。 学校祭ではリーダーシップを発揮できたが、他学年合同での対面活動が乏しかった。
2. 適切な学習習慣の確立を図り、基礎・基本を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 授業に臨むにあたり、十分な学習時間を確保させ、授業中心の受験態勢の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は良好であったが、休み時間と授業時間切り替えが不十分であった。 意欲や取り組みに個人差があった。 学習計画表や受験カレンダーを活用して見通しを持って学習させることができた。 コロナ禍の影響もあり、進路実現方法にやや偏りが見られた。
	(2) 校内・外部模試の分析を通して、進路実現のための意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 模試の復習や分析に十分な時間が取れなかった。 意識向上にはなっていた。compassなどを活用し具体的に指導できた。
3. 生徒の志望・適性に合った進路指導を図る。	(1) 面談を重視し、多くの面談機会を設け、生徒が希望する進路を正確に把握し、適切な助言をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> どの担任の先生方も十分面談をして、生徒の声をよく聞いて一緒に考えてくださっていた。 面談は実施していると思うが、アンケート結果から判断すると不十分なところがあるようだ。
	(2) 進路指導部と協力し、生徒の進路研究を充実させ、進路選択に十分な資料を提供する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路部から進路先の案内資料や過去問などをたくさん頂いたり、本当に丁寧に指導頂き大変助かった。 様々な情報提供しているはずだが、生徒・保護者が理解していないことがある。

1 2 国語科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 学年や時機に応じた学習法の確立のためのガイダンスを、授業等を通して随時行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生対象の学習ガイダンスは時機も内容も効果的であった。 校内テストの都度、復習の工夫、ポイントなどを話題にして、意識の喚起を図った。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して行う。
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題をこなすことに終始し、主体的に学ぶ姿勢につながらない生徒が見受けられた。 2年生では、クラスによって課題の提出率に差があった。 3年生は年度余中まで課題を指示し、自分で学習に取り組む気になる頃に終了した。自主的な学習につながった者が多かった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する。課題の精選を行う。
2. 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 小テストを活用して漢字・語句（現代文）や文法・句法（古典）などを継続的に学習する機会を設け、基礎学力の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 週一回の古文単語テストを継続的に実施することができた。 計画的に実施できた。 余裕がなく、実施できない時があった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 語彙力を伸ばすために、今後も継続する。
	(2) 思考力を鍛え、記述力の向上を意識した授業展開や課題の指示、作問を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントに自分の考えた答えを書くように指導を徹底した。 単元が終了する時に、筆者の考えや主題に対する自分の考えや感想、意見を書かせるように努めた。 問題演習を適宜取り入れて、思考力や記述力の向上に努めた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 読解中心の授業でどのように取り入れていくか検討する。 タブレットや電子黒板を使用して、生徒の答えや考えを共有できるとよい。

1 3 地歴・公民科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 地歴・公民科の教員が一体となって指導に当たること、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着を図る。	(1) 文化探究について、昨年度の反省を踏まえて授業のあり方を工夫するとともに、新教育課程における各科目の探究活動のあり方について検討を始める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動は柔軟な計画によって満足のいく形となったが、数値化が大変難しかった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 数値化できるよう検討していく。
	(2) 教科会を活用して生徒の情報交換に努め、生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着を図る指導法を共有する	A	<ul style="list-style-type: none"> 意思の疎通を図り、熱心に話合うことができた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 話合いの内容を具体的な指導法につなげる。
2. 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、大学入試に対応できる学力を身につけさせる。	(1) 前年度実施された大学入学共通テストの分析結果を踏まえて、授業やテスト問題の作成、課外のあり方などを検討し、指導法を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度から継続して、試行テストも含め分析を行った。ただ、作問に多くの時間を要した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 現実的な問題として、採点や分析のための時間の余裕がない。その時間を確保できるような校務全体としての体制が必要である。
	(2) 基本的事項の確実な定着を図るため、小テストの内容を見直すとともに、成績不振者に対しては教科面談や補習授業等を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 随時小テストの見直しを行い、教科面談を実施することで、成績不審者を出さないように努めてきた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 学年をまたいで授業担当する教員が多く、学年の別々の要望の受け入れは難しいため、すべての調整をしてから要望等はお願したい。

1 4 数学科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる。	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、主体的に学習できるように導く。また、観点別評価に結びつける方法を検討・実践していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習サイクルを確立できつつある。 教員の指導改善や生徒の学習改善に繋がるような評価にしていきたい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 観点別評価については授業や定期テストを見直し、次年度も検討し続ける。
	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業や教科面談を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度をこまめに変え、生徒の学習意欲の向上に努めた。 状況に応じて「なぜそうなるのか」を考える時間を取り、互いの意見を交換する機会を設けるように心掛けた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 考える時間や意見を交換する機会を増やせるよう努める。
2. 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 1ヶ月の学習の総復習として実施できた。多くの生徒が意欲的に参加し取り組むことができた。 事前に扱う内容や範囲を提示することで、計画的に実施できた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 参加人数に応じて効果が上がるような課外の方法・内容を検討していく。
	(2) 大学入学共通テスト（数学）において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に学習に取り組み、進路実現に繋がるような指導を心掛けた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通して、生徒が計画的に学習に取り組めるよう考える。

1 5 理科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 理科への興味関心を高めるため、日常生活との関連をふまえた授業の展開を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 実験やグループ活動に十分な時間がとれなかったため、日常生活に関連のあるような活動が撮れなかった。授業進捗の影響で時間の確保が難しい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 行事の精選を進め、授業カットを減らせないか。
	(2) 実験や観察などを効果的に取り入れた授業を通して、主体的かつ対話的な学びの実現を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間で対話をさせてもなかなか学びに結びつきにくい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> どのような方法で生徒に対話させるか、対話のさせ方の研究を進める。
2. 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 科学に関するトピックや、理科系進学に関連する情報を提供して進路意識の早期確立を後押しする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科として行っているが、学年の文理選択と有機的に連携できていない。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 職員間の共通認識を図る。
	(2) 外部関係機関との連携を図りながら、宇都宮大学高大連携講座や翔南サイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるよう支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮大学との連携講座はできたが、他の機関へともっと連携をつなげられれば。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の状況を見据えた上で最善の策を検討していく。

1 6 保健体育科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図り、主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。	(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。 ・ 集合時間の厳守 ・ 体育委員の役割の徹底	A	・ 始業チャイム前に集合し、挨拶・準備運動が徹底できた。 体育委員も役割をしっかりと果たすことができた。 ----- ・ 今後も継続指導する。
	(2) 体力の向上を目指して、スポーツテストの結果を踏まえたトレーニング方法を工夫する。 ・ 体力の著しい低下を防ぐ工夫をする。	B	・ 実施単元の種目に合わせたトレーニングを工夫し、準備体操後、毎時間2～3種目のトレーニングを実施した。 ----- ・ 今後も感染状況を見ながら、感染対策に配慮し、トレーニングを工夫する。
2. 体育施設の管理を徹底し、有効的に活用を図る。	(1) 授業・部活動・行事等で体育施設を使用する場合は、関係する分掌、学年、顧問等との連携を図りながら円滑に使用できるようにする。	A	・ 学年、その他と連携を図りながら、円滑に体育館などの施設を使用することができた。 ----- ・ 運動部顧問と連携を図りながら、円滑に使用できるよう、実施していく。
	(2) 体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等適切な取り扱いを徹底する。 ・ 長期休業中における清掃担当の割り振り ・ 施錠の徹底	B	・ 施錠忘れを指摘されることがあった。長期休業中の清掃は担当部活動を割り当ていただき、清掃を実施できた。 ----- ・ 各部活動の顧問の先生と連携を図り、体育館施錠の確認を行うようにする。

1 7 芸術科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒一人一人の興味・関心を深め、学習意欲を高めるとともに、芸術の良さや美しさを深く味わいながら、基礎的・基本的内容の充実を図りつつ、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。	(1) 指導内容を精選し、表現活動の質をさらに高められるような授業の実践に努めるとともに、生徒の学習意欲の向上に努める。	B	・ ICTを活用し、創作活動の幅を広げることができた。 ----- ・ 題材にじっくりと取り組むための授業時数の確保。
	(2) 表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、自己のイメージをもって、意図に基づいて創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。	A	・ 論理的思考が身に付けられるような鑑賞活動や、感想の共有機会を設けることができた。 ----- ・ 鑑賞活動を通して、表現の引き出しを多く作り、自身の創作活動に生かしていく指導を継続して行っていきたい。
2. 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	(1) 活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身につけられるようにする。また生活や社会の中の芸術文化と幅広く関わる資質・能力を育成するよう指導に努める。	B	・ 生徒同士で協力しあって作品を作り上げていくことにより、一人では感じることの出来ない喜びや達成感、協調性を身につけることができた。 ----- ・ 個人でそれぞれ感じていることを大切にし、的確なアドバイスを行うとともに、芸術に親しめるようにする。
	(2) 音楽・美術・書道の文化的・歴史的背景、我が国の伝統芸術などへの関心や理解を深められるようにする。	B	・ 日本の伝統芸術が、現代の身近な生活にも結びついていることに気付かせることができた。 ----- ・ 教員側も我が国の伝統芸術について幅広く理解することが大切だと感じた。理論および実技の習得に努めていく。

1 8 英語科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 進学に向けた英語の基礎学力、応用力をつける。	(1) 生徒が、自学自習を習慣化できるように指導する。また、各学年段階での指導を工夫し基礎の定着から応用力へと結びつけられるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの実施や計画的な課題の指示など、学習の習慣化を図るため工夫している。 コースや習熟度別に、一部テキストや学習内容を変えるなど、生徒に合わせた指導を行うことができた。 基礎が不十分である生徒や自学自習の習慣が身につかない生徒も多く、さらなる指導が必要である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 課題の出し方等について、さらにきめ細やかに検討し指導を行う。
	(2) 大学入学共通テストの問題をよく研究し、生徒が対応できる力がつくように指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 適切な教材を選択し問題演習や課題等で繰り返し学習させ、対応力が養えるような指導をすることができた。 今後の傾向の変化を注視しつつ、指導法の工夫を続ける。
2. 観点別評価方法の研究を行う	(1) 新教育課程の特質を踏まえ、観点別評価の具体的な方法を研究する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 方法を検討し評価することはできたが、「主体的に取り組む態度」の評価方法については、さらなる研究が必要である。 他教科の評価法などを参考にし、さらに評価基準を検討する。
3. 資格試験、弁論大会などへの参加生徒の支援を効果的に行う。	(1) 資格試験受験者の指導を計画的に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> Team-Teaching授業の中で、あるいは冬休み課題等の一環として、計画的に指導を行うことができた。 一次試験の結果がわかりしだい、二次試験の面接指導を行う予定である。 リスニング対策をさらに行いたい。
	(2) 弁論大会等への参加を奨励し、参加者の指導を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎年参加者を数名出し、原稿作成や発表練習等の指導を行っている。参加者は非常に熱心に取り組んでいた。 今後も指導に取り組んでいきたい。

1 9 家庭科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育む。	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定を図れるようわかりやすい授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを活用し、苦手意識が強いものを事前に把握し、授業を工夫することができた。また、生徒が何に興味を持ち、知りたいかを把握することができた。 1つの題材について時間をかけすぎてしまった部分もあるので、授業の内容について短時間で分かりやすい授業の工夫を行いたい。
	(2) 実験・実習等の体験的学習を重視し、思考力・実践力を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習はある程度できたが、生徒が主体となるのは難しかった。 ICTなどを活用し、実験実習の時間をもう少し確保したい。
2. 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高めると共に、安全・衛生面での意識を高揚させる。	(1) 自立した消費者を目指し、消費者教育の一層の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 消費者教育については特に時間をかけて授業を行うことができた。また、教材も工夫することができた。 外部を招いての消費者教育などもう少し工夫し実施したい。
	(2) 実験・実習等の体験的学習を重視し、思考力・実践力を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習はある程度できたが、生徒が主体となるのは難しかった。 ICTなどを活用し、実験実習の時間をもう少し確保したい。

20 情報科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注意しながら活用することができた。
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な情報機器を利用できると良い ・ プレゼンテーションは見本となるものをもう少し示すことができればよかった。 ・ 発表についての要点をまとめる。
2. 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で伝えることはできたが、もう少し時間がとれるとよい。 ・ 継続して個人の責任を理解できるよう授業を工夫する。